

# 築地川及び汐留川河川整備計画の概要

## 築地川・汐留川とは

築地川及び汐留川は、浜離宮恩賜庭園を取り囲む水域で、汐留川水門や築地川水門、防潮堤により隅田川と画された二級河川です。両河川とも流量配分を持たず、潮汐に応じて水位が変動する感潮河川です。

また、港湾区域と河川区域が重複する共管区域となっており、共管区域の一部が文化財指定範囲となっています。



【現況写真】



築地川（大手門橋下流）



汐留川（海岸通り沿い）



汐留川（汐留第二ポンプ所付近）

## 河川の特徴

### ●歴史

築地川は、明暦3年（1657年）大火災後に埋め立てられた三十間堀の海岸側に位置する築地を囲む堀でした。その後、高速道路の建設のため、水面の一部を残して埋め立てられ、現在は築地市場跡地と浜離宮の間に水面が残っています。

汐留川は、慶長11年（1606年）に日比谷入江（現在の丸の内から新橋の一带）の埋立てに伴い、外濠とともに造られました。その後、5区画に分けて埋め立てられ、現在の姿になっています。

### ●水質

環状2号線の整備に伴い、下水道からの流入がなくなったことから、平成26年頃より海域と同程度の水質まで改善しました。

### ●高潮対策

築地川及び汐留川では、築地川水門及び汐留川水門、浜離宮排水機場の整備を完了させたことで、昭和34年の伊勢湾台風と同規模の台風が、東京湾及び主要河川に対して最大の被害をもたらすコースを進んだときに発生する高潮（A.P.+5.1m）に対して安全なものとなっています。

# 河川整備の目標

築地川及び汐留川は、浜離宮恩賜庭園と隅田川に接しており、地域の魅力を高める貴重な自然空間となっています。今後、築地市場跡地の開発等周辺のまちづくりが進み、人々が集う交流拠点となっていくこと等を踏まえ、水辺に親しめる空間の創出が重要です。

## 河川整備計画の対象と期間

### ●対象区間

築地川 0.75km（全川）、汐留川 0.90km（全川）

### ●計画対象期間

・概ね30年間

沿川の社会的状況や水質等の自然状況等の変化、新たな知見、技術革新等により、計画期間内であっても必要に応じて改定していきます。

## 河川整備計画の目標

### ●計画の基本理念

「まちとともに生きる水辺をめざして」

### ●高潮・地震対策

- ・高潮：高潮対策施設は完成しており、現状の施設の機能を維持していきます。
- ・地震：築地川については、「東部低地帯の河川施設整備計画（第二期）」に基づき、将来にわたって考えられる最大級の強さをもつ地震に対して護岸の機能を保持し、水害に対する安全性を確保するために、耐震対策を実施します。

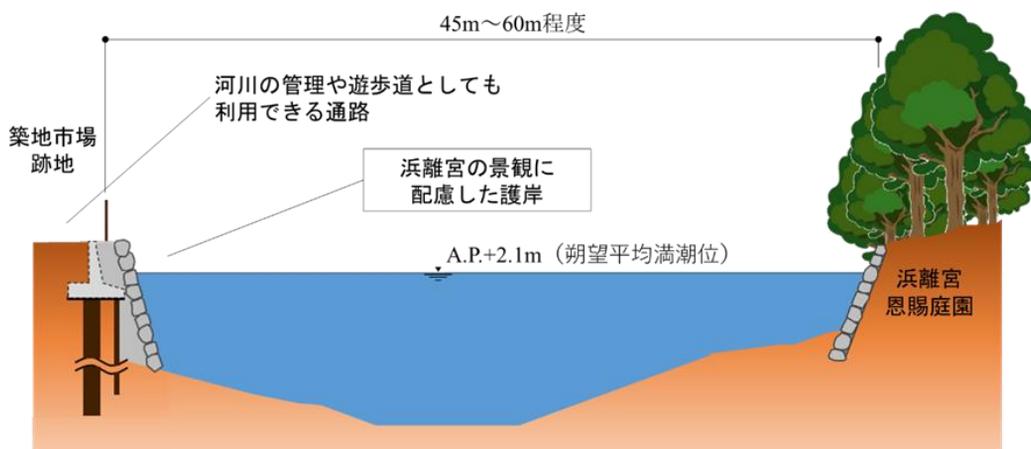
### ●河川環境の整備と保全

水辺の生き物にとって貴重な生息・生育・繁殖環境の保全に努めます。

河川の管理や遊歩道としても利用できる通路の確保に当たっては、築地市場跡地のまちづくり等とも連携しながら、隅田川等への歩行者アクセスに配慮するとともに、浜離宮恩賜庭園の石垣等の良好な景観や周辺のまちづくり等との一体性・連続性を確保しつつ、河川の緑化整備に努めます。

### ●河川の適正な利用

不法係留が解消された築地川では、今後も巡視等を行い、再発防止を図ります。



築地川 標準断面図